

学校
法人 内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 239 号
(12月)
2016

幼稚園での絵本の読み聞かせ

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

「絵本は、幼児が初めて出会う『本』
と言われます。そのかわりは、
豊かな感情を育み、言葉の獲得を
はじめ、認知能力の習得や心の成
長発達に欠かせない大切な営みで、
はじめは幼児にとって絵本は読ん
でもらい耳で聞き、体全身で感じ
るものととらえて活動しておりま
す。」

当園では、学級担任の指導計画、
ねらいにより絵本の読み聞かせを
毎日のように行っております。

本稿では、0歳、1、2歳の乳
幼児についての読み聞かせは別の
機会に譲り、3歳以上の幼稚園に
おける集団での絵本の読み聞かせ
はどんな状況かをご報告しようと
思います。

まず、当園での担任教師は、子

ども達の日頃の生活行動から、学
級で読む絵本を選択していること
が多い。例えば、自然への関心・
季節の移り変わり。日常生活で必
要なルールを気付かせたい。友達
とのかかわり方。行事を前にして
楽しむ準備。物語主人公の気持ち、
心の動きを感じさせたい。子ども
達の遊びを、もっと膨らませたい。

リラックスし安定した感情促進。
夢や創造性を豊かにしたい等々か
ら選んでいるようです。

年長組の第2学期は、昔話や童
話を意識して読むようにし、長い
お話は、2、3日に分けて読んで
いるが、子ども達はストーリーを
覚えていて、続きを楽しみに聞く
力が育っているようです。

読む時間帯は、ほっと一息つく

降園前が多く、課題によっては意
図的な時間を設定する場合もあり
ます。読み始める前には、手遊び
など他の活動から絵本に集中させ
る導入を行うことが多い。読み方
には、絵本選びの「ねらい」に関
心を持つよう、絵本内容から何か
を感じ取ってもらいたい読み方にな
るようです。

目の前の子ども達の反応を見な
がら読み進め、子ども達の共有感
情や一体感が生まれるよう心がけ
ており、この共有感情の育ちこそ
が、他者との喜怒哀楽の感情を共
有することで、お友達が悲しかつ
たりつらい思いをしている時に、
それに気づき共感する感情の育ち
です。幼児期における共感性の育
ちは非認知能力の育ちとしてとて
も大切なことです。

さて先日、私がお昼給食後の園
内の様子を見て歩いておりました
ら、5歳児の保育室の前で男児数
名が絵本貸出しノートをもって、
絵本選びをしておりました。日常
的な読み聞かせの中から自分で好
きな絵本を選び金曜日に絵本の貸
し出しで、お家で読むことを推奨
しておるのです。

子ども達の貸出しノート記入を

見ながら、そばにいた担任教師に
5歳児のこの頃の傾向を聞いてみ
ました。6月以降は、教師からこ
んな絵本もあるよと推薦本を紹介
しているが、それよりも自分たち
が読みたい絵本を選んでいくこと
が、同じ絵本を何度も借りてい
る子もおり、お家の人がそれに気
づき同じ絵本をお家に備えた事例
もあるとのことでした。

当幼稚園の子ども達が園内で自
由に手にして閲覧できる絵本の数
は、約2,000冊位ですが、こ
の度の年長児34名が借りた絵本種
類は360種(冊)に及んでおり
ました。その内230冊は一回の
みの貸出し、全体の64%になっ
ており、意外と今まで手にしたこと
のないものを選んでいくことが分
かりました。5回以上の貸し出さ
れた絵本は20種類で、その中で「カ
ラスのパン屋さん」、「ジャッキ
ーのパン屋さん」、「しぜん」、「ひと
まねごさる」、「おやすみなさいフラ
ンシス」、「くまのがっこう」、「11匹
のねこ」などが12回以上選択され
ておりました。



子どもたちの遊び・生活から



成長する子どもたち

つほみクラス 舟越 恵子

たくさんの泣き声からスタートして9カ月。お互いに緊張した面持ちで保育室に入り「はじめまして」の四月一日。おんぶに抱っこで過ごしたことが、今では懐かしく、そんなこともあったなあと微笑ましく感じるこの頃です。

「い〜れ〜て」「い〜い〜よ」と友達に声をかけながら遊びに入り、友達との関わりを少しずつ楽しむことができるようになってきた子ども達。一人遊びから、ままごと遊びやケーキを囲んで「ハッピーバースデー」を歌いながらの誕生会ごっこ、ブロックでは、みんなで繋げて大きな道路を作ったり、日々子ども達の成長を感じています。

最近では、「自分で！」の気持ちが出てきた子ども達は、自分でズボンを脱いだり、給食後のイスの片付けもできるようにになりました。「自分でやりたい」「自分で

きた」この気持ちを大切にしていきたいと思えます。

子ども達の気付きや発見は、本当に素晴らしく、毎日たくさんのことを教えてくれる私の“先生”でもあります。この小さな先生達と一緒に様々な経験をしながら、心も体も（!?）大きくなっていきたいと考えています。

これからもお家の方々のご協力を頂きながら、子ども達の成長を見守っていききたいと思えます。

トトロランド

Bクラス 竹岡 真美

11月9日、トトロランドが行われました。Cクラスの時にはお客さんとして楽しんだ行事ですが、一つ大きくなった今年は、みんなもお店やさんをやってみよう！ということで取り組みました。

みんなから出てきたたくさんのお店の中から、自分のやりたいお店を一つ決めて準備スタート。友達と一緒に品物を楽しそうに作っていく姿、コツコツ集中して作る

姿、「こんなものをつくりたい」というイメージを先生に伝えようとする姿などが見られ、どのお店も友達や先生と一緒に準備を頑張りました。中には、自分のお店だけでなく「〇〇があったほうがいいんじゃない？」と友達のお店にアドバイスしたり、手伝ったりする子もいました。

「いよいよ当日。開店すると「いらっしゃいませ〜！」と大きな声を出し、「どれがいいですか？」と小さいお客さんに目線を合わせて優しく声を掛けたり、おすすめ商品を元気にアピールしたりして、最後にはどのお店も完売！後半はAクラスさんのお店に行つて買い物やゲームを楽しませてもらい、



いらつしやいませ〜

みんな満足そうでした。

初めてお店屋さんをした今回の経験が力となり、これからの遊びや、今度はAクラスとしてトトロランドに取り組む時に生きてくると思います。来年も楽しみます。

遊びの中で広がる笑顔

Gクラス 岩根 香織

幼稚園での生活にもすっかり慣れて、毎日元気に過ごしている子ども達です。

10月からC1、C2クラスが合同になり、初めは少し緊張した様子も見られましたが、2か月一緒に過ごしたことで、子ども達の交流も増え、毎日「い〜れ〜て〜」や「一緒に遊ぼう〜！」という言葉が聞こえてきます。遊びの内容もままごとやブロックだけでなく、鬼ごっこやかくれんぼなどルールのある遊びを教師も交えながら楽しんでいきます。

また、11月にトトロランドにお客さんとして参加し、にぎやかなホールでの買い物を楽しみました。その経験から、テーブルいっぱい絵本を並べてお店屋さんをしたり、空き箱や画用紙などを使って自分のイメージしたお弁当や

ジュース、ゼリーなどを作ったりする制作遊びにも興味を持ち、張り切って取り組んでいます。1人が遊びを始めると、「同じのやりたい」と次々に遊びの輪が広がっていきます。

友だちと一緒に遊ぶ中で、思いの違いから喧嘩になってしまうこともありますが、教師が手助けしながら言葉で自分の気持ちを表現して、楽しい気持ちや発見なども共感して、友だち同士の遊びがさらに楽しく感じられるように見守っていききたいと思います。



参観を終えて

保護者より

女子力

Aクラス 大崎 ゆい

入園してから、めきめき娘の女子力が高まっているように感じる。女子力と言っても、ネイルにこだわるとか、料理のレパートリーを

増やすなどのハイレベルなものではなく、女子として生き抜いていくための力である。

例えば、娘は「○○ちゃんと同じ！」を大事にしている。エプロンのアプリケも、「○○ちゃんがこれだったからこれ！」という選り方をしていた。この年齢にして協調を大事にする女子文化が身につけているんだなあと感心した。

また「これどう思う？」に「かわいー」とか「いいねー」という返答が増えてきた。この返答は、娘が他に何かしているときに私が話しかけると、よく返ってくる。要は、全く興味がないうときの返答である。共感が要となる女子の会話の心得をしつかり習得している。極めつけは、娘はお父さんに何かして欲しいことがあると、「可愛いチュウしたらしてくれろ？」と大人顔負けの小悪魔ぶりを発揮する。もちろんお父さんはイチコロである。お父さんのちよろさはさておき、もう女の武器まで使えるとは、娘の成長に驚くばかりである。

これからも娘には、女子力を磨き、逞しく女子として生き抜いてもらいたい。

6年間の成長を目にして

Aクラス 工藤 美佳

息子が0歳で盛岡幼稚園の保育部に入園してから、気がつけばもうすぐ6年。

東日本大震災のわずか3週間後、まだ歩けもしない息子を抱っこして参加した入園式がつい最近のことのように思い出されます。

朝、離れる時に泣くのが半年以上も続いた息子は、3年通って幼稚園に上がった時もまた毎朝、幼稚園の玄関で泣き、1か月以上も「保育園に戻りたい」と訴え続けました。同じ建物なのに！

ちよつと慎重すぎて新しいことを始めるのが苦手な息子を少し心配に思いながらの幼稚園生活でした。

そんなことを思い出しながら参加した、先日の参観日。Aクラスは陶芸でした。先生の指示通りに粘土をこね、好きなように模様をつけ、完成したときの満足そうな顔！そこには、保育園に戻りたいと泣いていたあの頃の暗く曇った表情の息子はもういませんでした。

年長になったこの1年、たくさ

んの行事や経験によって新しい事にチャレンジする楽しさや自信を実感したようで、このごろはどんな新しい事に向かっていく姿が見られるようになりました。残り少ない園生活ですが、楽しい思い出をたくさん作ってまたさらに成長してほしいと思います。



どんなお皿にしようかな！

未就園児親子サークル「トトロハウス」

担当 小林 弘子

当園では4月末〜12月まで、未就園児のための親子の集い「トトロハウス」を行っています。対象児は1歳児から就園前の子ども達。開設当時は、参加年齢が3歳

児・2 歳児の子ども達でしたが、今は 1 歳児も多くなってきました。

初めのうちは、慣れない園の様子に緊張の表情でお母さんの傍から離れなかったり、泣き出したり

の姿がありました。回を重ねるごとに、毎週来る楽しさが分かります。笑顔での登園が増えてきました。登園すると好きなシールを出席表に貼り、電車遊び・ミニカー遊び

をしたり、ままごと遊びではおかあさんや傍にいる子に「ごちそうを出したりとごっこ遊びを楽しんでいます。中には毎回遅めの登園になり好きな遊びを十分にできないうちに集まりとなり「遊びたい」と泣く子もいます。

2 学期の生活(行事)から

★運動会(9月17日)

秋晴れのもと0歳児から5歳児までの子ども達がダンスや親子競技を楽しみました。毎年恒例になった未満児の親子ダンスは衣装も個性豊かで光っていました。

★秋の遠足

・Aクラス(タッピングの森9/27) 紫波町にある当園の教育林にでかけ、自然豊かな森を散策してきました。園長先生が前日に仕掛けたカニとりに3匹かかりました。

・Bクラス(愛宕山9月30日) 園を元気に出発し本町通、三ツ割を通って愛宕山に到着。長い長い距離を最後まで歩き、帰りは路線バスに乗って元気に帰ってきました。

・Cクラス(岩手公園9月30日)

Cクラスにとつて初めての園外。どうなることかと思いましたが最後まで歩きました。たくさんどんぐりに大興奮!たくさん遊んだ後の愛情たっぷりのお弁当・おやつにまたまた興奮の子ども達でした。

★作品展(10/19/21)

編集後記

保育室からは「まっかなお鼻のく」とクリスマスソングが聞かれる頃になりました。クリスマスまでの一日一日を心おだやかに、そして楽しみに過ごしていきたいと思っています。秋から始まった給食室の工事も順調に進んでおります。工事の関係もあり今年ほど、園外保育に出かけた年はなかったように思います。秋の深まりゆく岩手公園をじっくりと肌で感じることができました。また、異年齢で出かけることも多く交流の機会となりました。平成28年も残すところ数日となりました。迎える新しい年が皆様にとって良い年になりますようにお祈りいたします。

タッピングの畑でお世話になった熊谷俊一さんが十一月にご逝去されました。笑顔がとても印象的で子ども達にやさしく接して下さいました。ご冥福をお祈りします。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡 幼稚園

〒020-0002

盛岡市中央通一六―四七

TEL 六二二―二三〇一

理事長 坂本 洋